

町政覚え書き

第32回 大小チーム 初代算数チャンピオンに輝く
大切な10歳からの学習習慣
～考えよう、ゲームスマホ等の長時間使用～

大河原町長 伊勢 敏

去る9月24日、3人の大河原小学校児童、大宮健広君、茂泉翔太郎君、須藤龍一君が役場を訪れた。第1回宮城県算数チャンピオン大会の初代チャンピオンになったと嬉しい報告を受けた。宮城県は、学力向上の一環としてこの大会をこし創設した。県内の小学校から、3人1組の189チームが参加、その頂点に本町小学生が立ったことは本町の名誉であり、特筆すべきことである。問題を見せていただいたが、難問も多数あった。時間内の全問正解は困難を極める。大河原小学校チームは全30問中25問に正解した。平均の正答率47.5%に対し、わが大小チームは83.3%の好成績で快挙を果たした。

3人は、難しい問題ほど解いた時の達成感が大きく、算数が大好きと語ってくれた。小生にも覚えがある。小学校5～6年の担任の村上信義先生が生徒に自習用のプリントをくれた。解いた後のプリントはだんだん難しくなっていく。一問解くのに数時間かかり、一枚解くのに日付を越え

そうになったこともあった。早く寝なさい、と叱った親の顔、ほめてくれた先生の顔が交互に浮かんでくる。以前、大河原小学校には、「算数道場」と称する村上先生と同じ方法で生徒を指導される先生がおられた。今回も同じような方法で指導されたと聞き、そのような先生方の存在は大きい。今回の快挙は、全国学力テストで低迷する本県のレベルを上げてくれると思う。さて、昨年3月の町政覚え書きにも書いたが、ヒトの脳は10歳で成人の約90%に達し、学習能力は10～13歳頃に急速に発達する。この頃に、学習習慣を身に付けられるかどうか、その後の学力に大きく左右する。本町の小6及び中3の学校以外での学習時間等の実態について、本町教育委員会の資料「平成27年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙から見えてくる成果と課題」によって紹介する。平日に1日当たり1時間以上学校以外で学習する児童生徒の割合は、小6の77%から、

中3では67%に下がっている。一方、平日1日当たり1時間以上①テレビ・ビデオ・DVDを見る割合、②テレビゲームをする割合、③携帯電話・スマートフォンを使う割合は、小6 ①87%、②50%、③12% 中3 ①84%、②69%、③45% これら、いわゆるディスプレイ機器使用の時間は、小学生よりも中学生の方が長いことが読み取れる。以上の統計数値は、小学生から中学生にかけて学習習慣が後退し、遊びの時間が長くなってゆく本町の実態を示している。この問題を重視した大河原町明日の青少年を育てる会は、来月14日に開催する「平成27年度大河原町『明日青の集い』」において、昨年に引き続き、「ゲーム・携帯・スマホのより良い使い方」をテーマにしている。「集い」では、町内各小中学校の取り組み事例、インターネット安全講話などが予定されている。青少年の健全育成に関心をもちの皆さんの「集い」(11月14日13時15分から中央公民館にて開催)への参加を切に願うものである。【10月22日】

みんなで秋の収穫祭

南小学校「第35回もがり祭」

10月17日、大河原南小学校で「第35回もがり祭」が開催されました。

もがり祭は、児童が学校生活のなかで野菜などの栽培を体験し、働くことのありがたさや収穫することの喜びを学んだことに感謝するお祭りとして南小学校に代々受け継がれてきた伝統行事です。

お祭り当日は、「元気いっぱいみんなが楽しいもがり祭」をテーマに、縦割りチームに分かれてゲームや餅つき体験をしたり、PTAと地域の皆さんの協力を得て、児童が収穫した野菜などで作った「もがり鍋」やつきたてのお餅をみんなで食べました。午後には音楽発表会も行われ、地域の皆さんとの交流を深めた一日となったようでした。



今年も大活躍南小のヒーロー「もがりジャンパー」



縦割りチームで製作した手づくりみこし。

心に響きわたる音色と歌声

平成27年度大河原小・中学校音楽祭



▲大河原町文化協会邦楽部の尺八と三味線奏者の伴奏に合わせ、「さんさ時雨」を斉唱する大河原小学校4年生。

10月21日、町内の小・中学校が一堂に集い、合唱や合奏などを互いに発表し合う「大河原町・小中学校音楽祭」がえびこホールで開催されました。

会場では大河原小学校と南小学校の4年生、金ヶ瀬小学校の3・4年生の児童の透き通った歌声や大河原中学校3年生の代表、金ヶ瀬中学校1・2・3年生の生徒による力強い歌声のほか、大河原中学校吹奏楽部による迫力ある演奏が披露されました。来場した保護者の皆さんからは、児童や生徒の素晴らしい歌声や演奏に感動の気持ちを込め、合唱などが終わるたびに大きな拍手が送られました。

手作り作品を披露

役場庁舎ミニギャラリー制度が始まりました

10月13日、役場町民ホールに設置されたミニギャラリーに「おがわら模型クラブ」の皆さんの模型約40体が展示されました。

このミニギャラリーは、町民の皆さんの文化芸術活動(手作りの作品)の成果を発表する場として、10月から設けられました。展示場所として、ショーケース・長テーブル・展示パネルを提供しており、最長10日間展示することができます。

問合せ 企画財政課管財係 ☎53-2112 (内線222)



▲「これ知ってる！」と見たことがある作品をみて喜ぶ子どもたち。



「まちの本棚」

駅前図書館今月の新刊

一般/ゼロから理解する食肉の基本
西村 敏英/監修 「誠文堂新光社」
日本人の食生活はこの数十年で様変わりし、肉が食卓にならぶことも多くなった。肉のおいしさや栄養、世界の肉食文化、牛や豚の飼育安全・安心への取り組み、ビジネスなど、さまざまな切り口から「食肉」を紹介する。
小説/ルパンの娘 横関 大/著 「講談社」
わたしは泥棒の娘。結婚を考えていた彼は、警察一家の長男だった。泥棒の娘である華の恋人は刑事の和馬。ある日、華の祖父が殺され、和馬が捜査することになるが…。二人の恋は？ 犯人は？ 児童/幸せとまずしさの教室
石井 光太/著 「少年写真新聞社」
今、世界に住んでいる人の3人に1人くらいが、まずしいくらいに生活しています。家がない、ご飯が食べられない、トイレがない、学校へ行けずに働かなければならないといった、たいへんな生活の中でも、楽しく生きようとする子どもたちのすがたをとおして、幸せとはなにか、まずしいとはどういうことかを教えます。
児童/岸辺のヤビー
梨木 香歩/著 小沢 さかえ/画 「福音館書店」
小さな三日月湖、マッドガイド・ウォーターの岸辺に、ボートを浮かべかべて本を読んでいたわたしは、まるで直立二足歩行するハリネズミのような、クワイ族の小さな男の子、ヤビーと出会いました。そして、ミルクキャンディーをあげたお礼に、ヤビーから、いろいろいるな話をしてもらったことになって…。
絵本/クツケロ
加藤志異/作 本秀康/絵 「学研教育出版」
クツケロは、なんでもくつつけるおかしなカエル。クツケロケロケロクツケロ!とじゅもんをとなえると、ザリガエトニンジャがくつついて、ザリガニニンジャになりました。ジャンプしてはっばをちよきちよきしちやう。つぎはジャグチとチーターがくつついて、ジャクチャーになって…。